

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和元年度第1回吉川市水道運営委員会
開 催 日 時	令和元年7月31日(水) 午後2時00分から 午後4時10分まで
開 催 場 所	吉川市役所301会議室
出席委員(者)氏名	森田京子会長、齊藤幸男副会長、飯嶋啓之委員、飯塚貴利委員、 宇野二郎委員、岡田和也委員、京谷恵子委員、戸田馨委員 豊田宇助委員
欠席委員(者)氏名	中島のり子委員
担当課職員職氏名	水道課長兼技術管理者 秋谷裕司、 課長補佐兼庶務係長 岡田忠篤 課長補佐兼施設係長 小島誠治 庶務係 鈴木麻紀子主任、町田直人主任、石井史織主事 施設係 村上飛鳥主任
会議次第と会議の 公開又は非公開の 別	【次第】1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 市長あいさつ 4. 議 事 (1) 平成30年度吉川市水道事業会計決算(案)について (2) 吉川市水道ビジョン(経営戦略)の策定について (3) 水道イベントの開催について (4) その他 5. 閉 会 【公開・非公開】公開
非公開の理由 (会議を非公開に した場合)	
傍 聴 者 の 数	なし
会 議 資 料 の 名 称	1. 平成30年度吉川市水道事業会計決算(案) 2. 平成30年度吉川市水道事業会計決算(案)の概要について 3. 吉川市水道ビジョン(経営戦略)(案) 4. 令和元年度吉川市水道運営委員会会議開催予定表 5. 水道イベント開催要項 6. 吉川市水道運営委員会委員名簿

会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	戸田 馨委員 飯嶋啓之委員
その他の必要事項	
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	委員の委嘱 市長から宇野二郎委員（横浜市立大学教授）、岡田和也委員（埼玉県企業局新三郷浄水場長）へ委嘱書を手渡す。
事務局	1. 開会
森田会長	2. 会長あいさつ 委員の皆様からの忌憚のないご意見をいただき、最後までご協力のほどお願い申し上げます。
市長	3. 市長あいさつ 委員の皆様から、事業経営の計画性、イベントを開催して多くの市民が水道を知る機会の必要性などご意見をいただき、一つ一つ実現に向かっていると感じている。さらなる水道事業の推進に対し、委員の皆様からのお力添えをお願い申し上げます。
森田会長	4. 議事 本日の会議録の署名委員を戸田委員、飯嶋委員にお願いする。 戸田委員、飯嶋委員の2名了承。
事務局	(1) 平成30年度吉川市水道事業会計決算（案）について 資料1「平成30年度吉川市水道事業会計決算（案）」、資料2「平成30年度吉川市水道事業会計決算（案）の概要について」を用いて説明。
事務局	はい、ありがとうございました。それでは、ただ今の説明について、質問がありましたらお願いします。
岡田委員	【意見・質疑等】 有収率は埼玉県の平均が92%であることから、吉川市はやや低いという印象である。また、一人当たりの使用水量が269ℓとのことだが、埼玉県が公表し

	<p>ている吉川市の一人当たりの使用水量は3100である。また、企業償還元金と減価償却費の割合を示す指標が県全体を見ても高い。</p>
事務局	<p>埼玉県が公表している数字と異なっている要因としては、吉川団地など大規模な受水槽を有しているケースを簡易水道として認識しているかの違いである。今後、この数字をどのように表記するかは検討を行う。</p>
戸田委員	<p>県水受水率が97.05%と10%程度増加している。これは地下水では水質の保全が難しいということか。</p>
事務局	<p>給水の末端地点において、残留塩素濃度が低下したことなどから、県水の受水量を増やすことで改善できるかを検証したところ、大幅な改善がみられた。現状としては、県水の割合を増やさないと、水質が安定しないという状況である。</p>
戸田委員	<p>そうすると、地下水をこのまま維持するかが問題となってくると思うが、どのように考えているか。</p>
事務局	<p>地下水源を維持するかを検討する時期に来ていると認識している。</p>
戸田委員	<p>過去には有収率が高い時期もあった。これは、その時期に配水管洗浄などをしていなかったということか。県水受水率との関係は？</p>
事務局	<p>配水管洗浄の方法が異なっていることが要因と考えられる。</p>
豊田委員	<p>供給単価が減少し、給水原価が増加している。その理由と他市との比較を伺いたい。</p>
事務局	<p>供給単価の減少は給水収益が減少したことによるものである。給水原価については、水質の安定のために県水の受水量を増やしたことが主な要因である。</p>
岡田委員	<p>他市との比較をすると三郷市と同程度の水準である。越谷市、草加市はもう少し利ざやが大きい。</p>
豊田委員	<p>利ざやが1円75銭とほとんど差がない。これでは運営が厳しいと考える。</p>
事務局	<p>現時点では純利益が出ており、内部留保資金を活用しながら運営を行っているが、今後は適正な料金体系についても検討する必要があるが出てくる。</p>
森田会長	<p>他に意見が無いようなので、皆様の拍手をもって決算を承認したいと思います</p>

	<p>が、いかがでしょうか。</p> <p>(全員拍手)</p>
森田会長	平成30年度吉川市水道事業会計決算(案)については承認といたします。
事務局	<p>(2) 吉川市水道ビジョン(経営戦略)の策定について</p> <p>資料3「吉川市水道ビジョン(経営戦略)(案)」を用いて、策定支援業務の受託者である(株)日水コンより説明。</p>
森田会長	質疑応答に入る前に、宇野委員、岡田委員から専門的な立場からご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。
宇野委員	<p>まず、投資額の設定については、今あるものをそのまま作り変えて、法定耐用年数よりも1.5倍くらい長く使用することで投資額を平準化すると、年間でいくらかかるとかというものだが、先ほどもお話のあった地下水の取り扱いについてはもう少し議論をしておくべきではないか。地下水を使わないとすれば、浄水施設の更新費用を削減できるのではないか。</p> <p>料金の考え方については、法令に基づいた算定を行わなければならない、料金設定については慎重でなければならない。資料の中では令和50年頃に7億円の純利益が出るような計画となっており、ファイナンスという観点から言えば良いことだが、ここまでの利益が必要なのかは議論しておくべきだと考える。</p> <p>経営戦略を策定するにあたっての条件設定についてはもう一度検討した方がよいのではと考える。企業債残高対給水収益比率300%という考え方が適切なのか、年間の収益に対して償還がどのくらいあるのか、という考え方もあるのではないか。料金の値上げ幅と借金とのバランスも考える必要がある。</p>
岡田委員	地下水の在り方は将来の更新需要にも大きく関わってくるのでよく考えた方がよい。吉川市は新三郷浄水場、庄和浄水場の県営浄水場2カ所から受水できるという点はメリットなので、その点をわかりやすくしてはいかがか。
豊田委員	地下水の在り方については、維持費がかかるのでやめた方がいいということか。そうすれば更新費用もかからないということか。
岡田委員	地下水の水質があまり良くないという特性もあることから、費用面も含めて、他の方法を検討することもできるのではないか。
事務局	更新費用がかからない代わりに、県から水を買う費用が増加するので、そのバランスもよく検討する必要がある。

宇野委員	<p>料金の話で補足をさせていただくと、給水戸数、有収水量が横ばいで収入が減少しているのは、料金体系に起因していると考えられる。基本料金で回収している原価より、従量料金で回収している原価が多いと、有収水量が減少した時に収入が大きく減少してしまう。料金の水準を上げることを考える前に、料金体系を見直した方がよいのではないかと。</p>
事務局	<p>料金体系の検討については、市民の負担も考えながら、検討してまいりたいと思います。</p>
事務局	<p>(3) 水道イベントの開催について 資料5「水道イベント開催要項」を用いて説明。</p>
戸田委員	<p>水道イベント開催要項の中で目的が示されているが、水道水がどのように作られ、どのように届けられるのかを伝えてもらいたい。</p>
事務局	<p>(4) その他 資料4「令和元年度吉川市水道運営委員会会議開催予定表」を用いて、日程の確認を行った。</p>
事務局	<p>市の一般会計から、吉川中学校建設等に伴い、一時的に資金が不足することから、借入をしたいとの要望がきております。年度内に償還することを条件とした、短期間の貸付であり、利率等につきましては今後調整をいたします。このことについて、ご審議をお願いいたします。</p>
森田会長	<p>両者がウィンウィンになるような条件で、十分な話し合いのうえ、対応してください。他に何かございますか。ないようですので本日の会議を終了します。ご協力ありがとうございました。</p>
事務局	<p>5. 開会 ありがとうございました。それでは、閉会の言葉を齊藤副会長よりお願いします。</p>
齊藤副会長	<p>皆様のご協力により、本日の委員会が活発に行われました。今後もよろしくご協力をお願い申し上げます。</p> <p>以上で終了。散会。</p>

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和元年10月 4日

署名委員 飯嶋 啓之（自署）

署名委員 戸田 馨（自署）